

(平成 29 年 5 月試験研究業務月報)

試験研究課題：高病原性鳥インフルエンザ発生リスク低減技術開発のためのネズミ侵入経路の解明

研 究

## 養鶏場でのネズミの行動調査開始

高病原性鳥インフルエンザ（以下 HPAI）の発生要因の一つとして、ネズミ等の野生小動物が鶏舎内にウイルスを持ち込むことが疑われています。

国の全国調査では、人がいなくなる夜間に、鶏舎から卵を搬出するコンベアや除糞ベルトの出入口である開口部でのネズミの存在が確認されていることから、鶏舎内への侵入防止対策が必要であるとされています。

そこで、当センターでは 5 月 18 日から府内養鶏場において、センサーカメラを設置し、ネズミの有無や鶏舎に近づくネズミの行動を調査することによって、効果的な侵入防止対策を確立し、HPAI 発生リスクの低減を目指しています。



調査場所について農場と打ち合わせ



調査用センサーカメラの設置